

2025年度

事業報告

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

〔がん患者支援事業〕 計 1 6 0 2 万 8 8 4 3 円（予算 1 6 8 8 万円）

＜患者団体への助成＞

全国のがん患者会や支援団体を対象に一般公募で活動資金を助成する事業で、28団体に助成した。子供に焦点を当てて小児がん患児やがんの親を持つ子らを支援する活動を4団体が実施したほか、正しいがん情報を学ぶための勉強会や講座を開催する活動も目についた。なお、4団体が自ら若干の助成残金を返納したほか、1団体が申請した使途と異なる備品購入や旅費に助成金の多くを充当したため、相当する助成総額の5分の4を返金させた。

（予算 7 5 8 万円、支出 7 3 4 万 9 4 2 3 円）

＜医療機関への助成＞

□「がん情報ギフト」事業継続の支援（330万円）

「がん情報ギフト」は、国立がん研究センターが図書館へがん治療情報の冊子セットを寄贈し、地域の拠点病院とも連携を図って、図書館に正しいがん情報普及の窓口役を担ってもらう事業。一般からの寄付を基に始まったこの事業の発展強化を目指し、2019年度から助成を行ってきた。

2025年度はこの冊子セットの一部更新・補充や、図書館と病院や自治体の保健医療部門が連携した啓発イベントの開催などに330万円を助成した。冊子セットはすでに全国774館（2025年9月現在）の図書館に寄贈されている。

（予算 3 3 0 万円、支出 3 3 0 万円）

＜QOL（クオリティー・オブ・ライフ）向上への助成＞

□読響ハートフルコンサート

がん患者やその家族の心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣し、弦楽四重奏などを披露する事業。一流オーケストラの楽団員による生演奏は、どこの会場でも大変喜ばれている。2025年度は予定通り8会場で開催し、2007年からの通算開催数は115回に達した。各会場には患者・家族や医療従事者らの聴衆が集まり、そのコンサートの様子は読売新聞の地域版にも掲載された。

（予算 6 0 0 万円、支出 5 3 7 万 9 4 1 0 円）

地域	医療機関名	開催日
新潟県	魚沼基幹病院	4月24日（木）
福島県	福島労災病院	6月4日（水）
福岡県	国立病院機構九州医療センター	7月29日（火）

青森県	八戸市立市民病院	10月 6日（月）
群馬県	公立藤岡病院	11月 6日（木）
兵庫県	兵庫県立はりま姫路総合医療センター	12月 8日（月）
香川県	香川労災病院	12月12日（金）
宮崎県	さがら病院宮崎	2月 7日（土）

〔運営体制充実を図るための取り組み〕

当会ではガバナンス体制の充実について、以下の取り組みを強化継続してきた。

役員等の構成については、当会の使用人または過去に使用人であった者を選任しない原則を貫き、2025年度選任の理事1名、評議員1名を含め、現在も理事、監事、評議員はいずれも外部から選任した顔ぶれとなっている。

これら外部理事・監事への対応として、通常理事会はオンラインではなく対面開催として役員間のより円滑な意思疎通を図り、夏、秋、冬に事務局から業務報告を兼ねた通信を発して情報提供に努めている。また、評議員の選任は、かねてより評議員選定委員会方式を採用し、中立公正な人材の選任を実現してきた。

当会が専ら取り組むがん患者支援事業での支援先選定には、がん医療関係者、学識経験者、がん経験者の文化人や患者会関係者ら7人による専門委員会が主導的に関与してきた。文字通り専門的立場からの綿密な討議により、当事業の業務執行の実効性を担保するための有用な助言、指導が得られている。

このほか、資産の管理運用については、適正かつ効率的な運用を定めた資産管理・運用規程を補強する「資産運用に関する指針」を設け、①確実な元本回収、②流動性の確保、③リスク認識と透明性の確保――を基本原則に、運用にあたっては専門家の助言を受けることとして、代表者や一部使用人による恣意的な運用や不正行為の抑止を図っている。

以上

2025年度 がん患者団体助成 助成実績

() 内は所在地、金額は助成額

1. NPO法人 勇者の会（北海道）35万円

幼稚園に受け入れられない小児がんの幼児と家族のお泊り保育を芦別市のグランピング施設で実施したほか、クリスマスに患者家族と地域の交流会も行った。

2. 北海道CLIMB（北海道）40万円

札幌市と旭川市で米国のCLIMBプログラムによるがんの親をもつ子への支援事業を実施。計6家族が参加し、「他の親の話を聞いて気持ちが奮い立った」などと喜ばれた。

3. 北日本若年性がん患者会 The Bright Future（青森県）15万円

岩手、青森で計4回のランチ交流会を開催。会報冊子第8号を1500部作成し、東北各地など48のがん拠点病院へ送付してAYA世代のがん経験者仲間に向けた情報発信に努めた。

4. すい臓がん患者と家族のおしゃべりサロンぶどうの木（宮城県）20万円

すい臓がんと胆道がんの患者・家族10組14人をモデルとした撮影会を行い、その写真展を仙台市市民活動サポートセンターなどで長期開催。高校学園祭などイベントにも出展した。

5. 小児がん患者会ネットワーク・ピアサポートグループ（愛知県）30万円

心理教育カウンセラーを講師として10月に兵庫県でオンライン併用、12月に愛知県でオンラインによる小児がん向けピアサポーター養成講座を開催し、計約50人が参加した。

6. Cowden症候群当事者会ほっこり（千葉県）30万円

札幌での遺伝性腫瘍学会など4学会にブースを設けて同症候群の周知を図った。完成したサーベイランス手帳は横浜の日本人類遺伝学会で配布したほか、全国21医療機関に送付した。

7. JPOM（東京都）30万円

全がん連と難病の全国団体が協力して8月に都内で第1回日本患者会議を開催。オンライン含め約200人が参加し、今後も開催を継続する方針を打ち出した。

8. NPO法人ソシオキュアアンドケアサポート（東京都）40万円

看護師とソシオエステティシャンが傾聴やアピランスケアを提供する「がん患者と家族のホッとサロン」を東京、大阪、兵庫、福岡、北海道で計35回開催、計212人が参加した。

9. 一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングス（東京都）40万円

4月に国立がん研究センターで同センターなど共催の公開講座「知って備えて・学んで予防正しく知ろう食道がんの事」を開催。約50人が参加し、オンラインでアーカイブも配信した。

10. 一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク（東京都）40万円

希少がんセンターを持つ九州大学病院で12月に「語り合おう希少がん in 福岡」を開催。約60人が参加し、希少がん患者らの発表と専門医らの講演、課題に対する討論などを行った

11. 認定NPO法人 希望の会（東京都）30万円

12月に国立がん研究センター東病院敷地内のホテルで、胃の外科手術者向けに用意した料理の試食と意見交換会を実施。胃がん経験者、同センター医療者ら15人が参加した。

12. ハートリボン（神奈川県）32万円

体に良い食事や生活習慣などに関するオンライン講演会・交流会を4回開催。ほかに5会場で計8回のランチ会、エステ、整体マッサージも行ったが、参加は各回3人以下だった。

13. 一般社団法人まめつつ（東京都）20万円

企業のがん患者・経験者を対象に10月～12月、法政大教授の協力で「体力倍増3か月チャレンジ」と題した運動と体力測定イベントを開催、5社から15人が参加した。

14. 一般社団法人みんなのレモネードの会（神奈川県）5万円

会の活動紹介と小児がんの基礎情報をまとめたA1判パネルと卓上パネル各4枚を製作。地域のイベントで開設したレモネードスタンドに掲示し、小児がん啓発に活用した。

15. NPO法人 オレンジティ（静岡県）30万円

女性向けにオンラインで6月に病後の尿漏れ、11月に静岡市の会場でリンパ浮腫ケアに関する講演会を開催。がんの女性向け防災用冊子も作成し、がん拠点病院などに送付した。

16. 京都乳がんピアサポートサロン～fellows～（京都府）13万円

院内サロン、相談支援センターとの連携やピアサポートのあり方を探る「思いを繋ぐ患者会の集い」を12月に開催。府議や参院議員の参加も得て行政への提案にも繋げた。

17. NPO法人がんと共に生きる会（大阪府）25万円

「がん患者にできること」をテーマに12月、東京で25周年記念公開講座を開き、オンラインを含め256人が参加。医療情報の過多や患者会・メディアの機能などについて討議した。

18. NPO法人 つながりひろば（大阪府）40万円

大阪市内のグランピング施設で11月、焚火を囲んだお話し会を中心にウイッグ活用指導、がん専門運動指導士の講習などの1泊交流イベントを開催、21人が参加した。

19. 一般社団法人らふ（大阪府）30万円

6月に看護学生39人など100人以上が参加する市民フォーラムを開催。昨年死去した会員を看取った家族と訪問看護師らの体験発表と、がん体験者のファッションショーなどを行った。

20. 関西GIST患者と家族の会（大阪府）10万円

6月に55人参加のGIST学習会を開いたほか、2回の患者交流会やリレー・フォー・ライフ滋賀医大への参加などを実施。貴重な医療情報の入手と患者間交流を図ることができた。

21. はまなすの会（兵庫県）40万円

集いの場「はまなすの家」を月20日以上開放したほか、5市町で月1回がんサロンを開催。タオル帽子約2000枚を作成、提供したほか、赤穂市でがんサポーター養成講座を開いた。

23. 治療と仕事の両立支援～はーべすと～（奈良県）30万円

オンライン相談会を3回、高額療養費や緩和ケアに関する勉強会を4回開催し、各回4人～15人が参加。団体のリーフレットとホームページも更新し、医療機関にも活動を周知できた。

24. NPO法人美身伝心（島根県）20万円

申請事業としては1月末にタオル帽子講習会を開催したのみだった。アピアランスケア用として高価な美容用品購入などへの助成金流用を報告してきたため、16万円余を返還させた。

25. NPO法人未来ISSEY（香川県）35万円

小児がん啓発月間の9月に「銭形砂絵寛永通宝」など3か所でゴールドのライトアップを実施。丸亀町商店街で岸谷蘭丸氏らを招いたチャリティライブ等の啓発イベントも開いた。

26. 肺がん患者サロンなでしこ（香川県）15万円

女性患者を対象に高松市で肺がん経験者の社労士、呼吸器科医師らの講演会を開催。前年の「1年後の自分に手紙を書く」企画と組み合わせ、交流とセルフマネジメント向上を図った。

27. がん患者生活サポートF.P.（福岡県）33万円

がん患者の医療、経済、外見、生活の支援という多角的テーマの講演および体験型プログラムを6、7、8月に博多駅前で開催。各回20人前後が参加し、情報共有と交流が図られた。

28. 血液がん患者・家族の会 MUSUBI（福岡県）15万円

6月と11月に浜の町病院で血液がんの最新治療などに関する医療講演会と患者交流会を開催し、計50人が参加した。5月にはオンライン患者交流会も実施した。

29. 膵がん患者夫婦の会（福岡県）30万円

膵がん患者・家族の文集2000部を作成し、5月には代表者のバンドなどによる「がん患者と仲間たちの音楽会」も開催。対面とオンラインの交流サロンなども毎月開催した。